



前進座公演

北九州市立松本清張記念館プロデュース

松本清張 原作 鈴木幹二 脚本・演出

松本清張 朗読劇シリーズ

『青春の彷徨』

『或る「小倉日記」伝』

写真提供・文藝春秋

〈出演〉

柳生 啓介

浜名 実貴

中嶋 宏太郎

2022年/第330回 旭川市民劇場12月例会

12月5日(月) 午後6:30
6日(火) 午後1:30

上演時間 1時間55分(休憩15分含む)

会場/旭川市公会堂

入会のご案内

入会金	2,000円	会員になると 年6回の演劇を 鑑賞できます。 詳しくは旭川 市民劇場まで。
会費(月)	一般 2,500円	
	大学生 1,000円	
	中高生 500円	

次例会のご案内

2023年2月例会 劇団扉座

『最後の伝令 菊谷栄物語』

2月21日(火) 午後6:30 作・演出/横内謙介

22日(水) 午後1:30 出演/岡森諒

会場/旭川市公会堂 中原三千代 ほか

★ 前進座公演

北九州市立松本清張記念館プロデュース

松本清張＝原作 鈴木幹二＝脚本・演出

松本清張 朗読劇シリーズ

『青春の彷徨』

『或る「小倉日記」伝』



柳生啓介



浜名実貴



中嶋宏太郎

前進座は、北九州市にある松本清張記念館で記念館友の会の企画として朗読劇を年1回、19年以上に亘って上演して参りました。たくさんの作品の中から、『青春の彷徨』と松本清張が小説家となるきっかけとなった芥川賞受賞作品『或る「小倉日記」伝』の2本をお届けします。

清張作品の作風を活かしながら一時間に凝縮した鈴木幹二の脚本、出演者三人のアンサンブルは、皆様の五感を揺さぶることでしょう。

◇ あらすじ

『青春の彷徨』

昭和28年発表の短編。佐保子は大学教授の娘で21歳。木田はその教え子で25歳。教授の父が結婚を許さないの、二人はついに美しい心中を決意する。そして阿蘇山の噴火口に身を投げようとするが、人形を使った救助訓練を見て幻滅し思いとどまる。が、耶馬溪に逗留し、美しい老夫婦の心中話に感動した二人は、再び死に場所を求め山中をさまよった末に見つけたものは……。

美しい死に憧れる若者たちの姿を皮肉に描いた秀作。

『或る「小倉日記」伝』

原作は、1952年。翌年第28回芥川賞受賞。

森鷗外が小倉市（現北九州市）に滞在した二年十ヶ月について、調べて歩く一人の青年がいた。

田上耕作というその青年は、体こそ不自由であったが頭脳が明晰で、地元の指導的文化人である白川慶一郎のもとに出入りし、資料調査の手伝いなどをしていた。ある時、鷗外の小倉時代の日記が散逸したことを知り、失われた空白を、当時流行し始めた民俗学の調査方法で「資料採集」し、埋めていくことを思い立った。

耕作は、鷗外調査に打ち込んだ。鷗外がフランス語を学んだベルラン神父や、朋友・玉水春鏡の未亡人、鷗外に度々原稿を依頼していた元門司新報支局長・麻生作男など、小倉時代の鷗外を知る人物に取材し、鷗外像や交友関係が明らかになってゆくにつれます情熱を燃やした。

調査資料が嵩を増す一方で、耕作の病状は悪化した。昭和二十五年の暮、鷗外が「冬の夕立」と評した空模様の日、ついに息をひきとった。

東京で鷗外の「小倉日記」が発見されたのは翌年のことであった。